

IGES **APFED**
Asia Pacific Forum
Environmental Development
Towards sustainable development - policy oriented, practical and strategic research on global environmental issues
Institute for Global Environmental Strategies

インドネシア 廃棄物処理場におけるメタンガス排出除去

Indonesia – Methane Gas Removal in Landfill Site for Reducing Green House Gases Emissions

APFED IGES 地球環境セミナーFY2009/VI

小林正典
Masanori Kobayashi

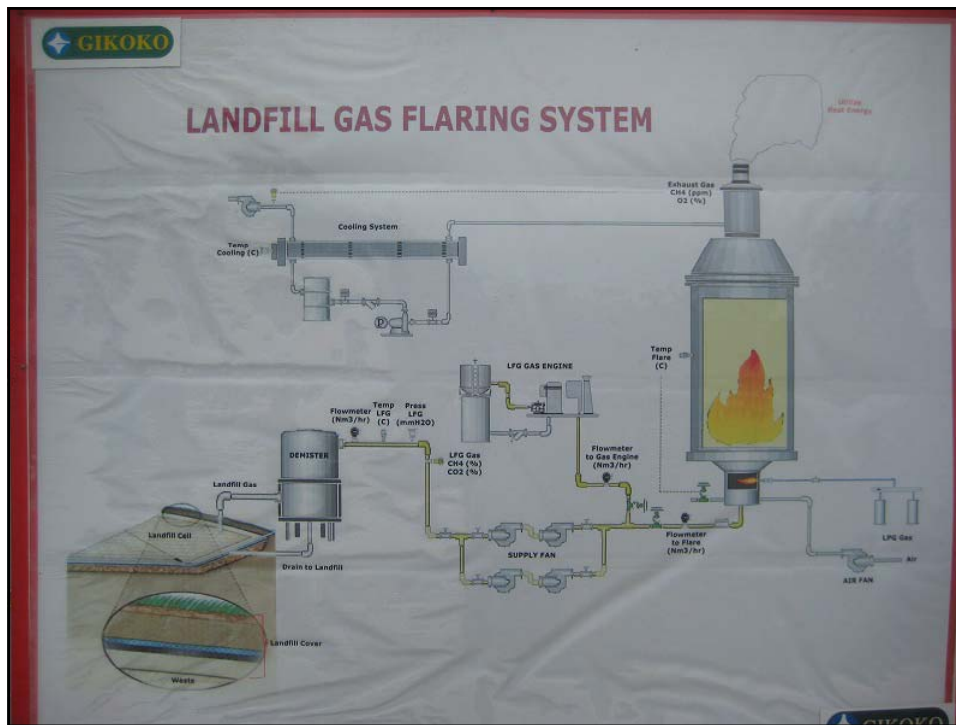
2010年3月29日
於：横浜

インドネシア埋め立て処分場におけるメタン燃焼CDM — 概要

- 西ジャバの東部に位置するベカシ市 — 225万人が居住
- 1日当たりのごみの発生量は7000m³ を超え、1800m³が回収
- ごみ排出量および堆積量の増大は深刻な環境問題
- 官民共同での廃棄物処分場のメタンガス放出制御・メタンガスの燃焼事業
- 2007年7月には、世界銀行、排出権取引購入協定を締結し工事開始、ベカシほか国内4か所を対象 (Bekasi, Pontianak, Palembang, Makassar)
- 2008年にUNFCCCにCDMとして認可・登録
- 2トントラック20台が毎日運行



- 3.3 haの埋め立て処分場
- 毎時300m³ のメタンガス排出、900m³ まで拡大可能
- 埋め立て開始から6年がメタンガス排出のピーク
- 年間5万トンの二酸化炭素に相当、
- 1トンUSD10ドル計算で獲得できる排出権は50万ドル



実施に係る経費

資金

- 世界銀行より USD 150,000 の実施可能性調査支援、
- 世界銀行が2012年までの排出権購入を約束、
- 先物価格固定による価格の安定化を図る。

支出

- CDM 認証・登録経費 USD 38,000-
- 設計、監視計画作成、建設作業、外部委託料、認証経費US\$ 951,270-

7

将来的課題

- CER売却が完了せず、CER資金の回収が済んでいない。
- 発電には、発電設備の設置に追加的費用がかかり、地域住民の側での負担能力がない。
- 電力価格が補助金により低額に抑えられており、電力販売収益での資金回収が困難。
- 配電には国営独占電力会社PLNの電線を利用せざるをえず、使用料金や電線追加敷設経費がかかる。
- メタンガスの回収・燃焼、メタンガスの発生を回避、世帯別でのコンポストなどを選択・地域社会参加型の意思決定する枠組みの必要性。
- が政府や国際機関による優遇融資や支払い保証とった優遇措置の必要性、
- 実業家やNGO向けの研修等の継続・拡大